

博物学研究 その4

～つちにんぎょう～

川瀬 基弘

愛知みずほ大学人間科学部

1. 土人形とは

土人形とは、文字通りの泥土製の人形のことで、粘土を手捻りや型で形成して、顔料で彩色した素朴な人形です。ベト人形あるいは単にベトとも呼ばれます。今回は江戸時代から作られてきた土人形を紹介します。

2. 土人形全般の起こり・用途

江戸時代前期に、公家や大名を中心に御所人形や衣装雛などへの嗜好が高まったのをきっかけに、それらの高級人形とは別に、各地で身近な素材を利用した郷土色豊かな遊び道具や飾り物がつくられました。主流は、雛人形、武者人形などの節句の飾り物と、五穀豊穡、厄除け、開運などの縁起物です。

3. 節供に土雛をはじめとする人形を飾る風習

子供の幸福を願い、無事生育を祈る親としての心づもりが土人形を求めさせ、それを飾らせました。そもそも、日本の人形は「ひとがた」から始まったと言われています。ひとがたは、人の身につく諸々の禍難を除くものとされて、身の穢れをひとがたに転嫁させて、これを流し去りました。このひとがたが、天児や御伽這子となり、子供の誕生とともに求められて、その子が三歳になるまでは子供の側に置かれ、子供の生育のさまたげとなる魔や禍い、そして穢れなどをこの人形が代わって引き受けて、川に流し去られたもので、このような思想が後の世の土人形にまで継続してきたものとされています。広い意味での土人形は、縄文・弥生時代の土偶や埴輪を含めますので、その頃に起源があるのでしょう。

4. 愛知県の土人形の製造技術や様式のルーツ

愛知県内における土人形の先進地は、乙川、名古屋あるいは犬山とも言われていますが、共に江戸時代末期、京都の伏見人形の製法と技術を導入して作り始められました。

5. 江戸末期に一大生産地になった東海地域

古くから瀬戸や常滑は陶磁器の生産地であり、三河南部は三州瓦の産地として、全国的にも良質の粘土に恵まれたことが、土人形製作の大発展につながりました。もともと東海地域には、東海層群と呼ばれる良質な粘土層を含む地層が広く分布しています。また、全国どの県と比べても、愛知県ほど土人形の華々しい歴史を飾った県は他にはないようですが、愛知県は、どこへ行っても、歌舞伎、文楽等の芸能が盛んなところであり、郷土色豊かな年中行事が受け継がれていたことにも影響されるようです。

6. 土人形の生産と需要が衰退した原因

昭和時代には大衆娯楽の近代化と、新型雛の台頭に押されて衰退していきました。

7. 土人形の工法・彩色の原料

工法は粘土で成形して乾燥させただけのものと、焼成したものとがあります。成形方法は「手捻り（轆轤や型を用いずに手作りで成形すること）」と「型抜き（粘土を型から抜き出す型作り成形のこと）」の2種があります。色料については、植物染料と鉱物質の顔料とを併用した前期と、化学的な染料や顔料を主材料にした後期との2つに大別できます。

8. 土人形の魅力

土人形の多くは名もなき工人が汗水を流して作り上げた作品です。型で量産されましたが、手作業による色絵付の筆使いによって表情は一つ一つ異なります。その素朴な表情・姿勢・色彩には物語性すら感じられます。表情と姿勢に注目すると、同じ人形でありながら1点1点少しずつ異なることも注目すべきところです。

9. 引用文献

古谷哲之輔(1973)三河土人形. 日本雪だるまの会, 静岡市.





